地域づくり人材育成講座2019

第4回

2019年12月6日（金）
14:00～16:00

ジブンゴトの災害情報共有

主催：上田市
共催：公立大学法人 長野大学

オープンデータ宣言　CC-BY（クレジット表示）
この資料はCreative Commons 4.0に基づきライセンスされます。(http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/)。
出典を表示することを条件とし、複製、改変、営利目的での二次利用も許可します。

講座構成（全５回）

- 第1回 11/11（月）
  20年先を見据えた住民自治と郷土史防災
- 第2回 11/22（金）
  行政と市民と若者が手を取る防災を考える
- 第3回 11/29（金）
  防災における行政と市民の協働―情報の共有と提供―
- 第4回 12/06（金）
  ジブンゴトの災害情報共有
- 第5回 12/13（金）
  「防災」から地域づくりをどう進めるか

本日の講座内容
行政と市民と若者が手を取る防災を考える

14:00　本日の講座のねらい＋地域で情報共有するマップづくり
　前川道博（長野大学企業情報学部教授）
14:30　実習：地域防災マップづくり
　講師：中村完二郎（カンプロ）
（14:55 途中休憩）
15:30　グループワーク：
　今後に向けて地域の情報共有をどう進めるか
16:00　終了

地域づくり人材育成講座2019
第4回
本日の講座のねらい＋
地域で情報共有するマップづくり

2019年12月6日

前川道博
長野大学・企業情報学部

本講座の視点、目標

- 講座の視点
  - 住民（老若男女）が自ら喜んで地域課題を考える
  - 世代間の壁を越え次世代につなぐ（２０年先）
  - 皆が参加できる情報共有のしかけをつくる
- 本講座の目標
  - 本講座で得た知見を活かし、来年度の住民自治活動、防災活動が立案できるようになる
  - 住民自治組織の構成メンバーや住民に対して、住民自治活動、防災活動のリーダーシップが取れるようになる

本日の講座のねらい

- 災害情報をどう共有するとよいかがわかる
- 自分からの情報発信をジブンゴトに変える
- 「信州デジタルコモンズ」の利用を検討してみる

第３回GW「情報共有と提供」課題・1

- 情報共有にはICTが得意な若者の力が必要
- 現場にいる消防員からの情報共有が必要
- 若者と年長者の間を補える地域メディアが必要
- 武石のエリアトークはグッドプラクティス
  - 加入者が多くメディアの伝達効果が高い
  - 地元の情報だけを自分たちの判断で絞り発信
- 情報がどう「受信され行動したか」が重要
  - 城下では消防団が声をかけ避難行動に移った

第３回GW「情報共有と提供」課題・２

- 前川からのまとめ
  - 豊野でマップづくりが実践できていることはGP
  - 皆で情報を出し合うことで防災意識が高まる
  - 住民自治組織で具体的に何ができるかを考える
- 水野さんからのアドバイス
  - 小さなことから始め積み重ねていくことが大切
  - 将来につながる向きを合わせていく

グッドプラクティスと評価の高い
武石のエリアトーク

- 武石地域情報伝達無線システム（エリアトーク）
  - https://s-takeshi.jp/area.html
- 「住みよい武石をつくる会」が事業主体
- 2018年1月から本格運用開始
- 約900世帯（武石地域の75％）が加入
- 加入者負担金：年4,000円で運営
- 放送内容
  - 台風や大雨、地震等の災害・防災、避難・救援情報、行政からの各種お知らせetc.

地域で情報を共有するネット上の本棚
信州デジタルコモンズ

信州デジタルコモンズプロジェクト
～みんなで共有できるネット上の本棚をつくる支援～

サービス
をつくる

学生の
学び

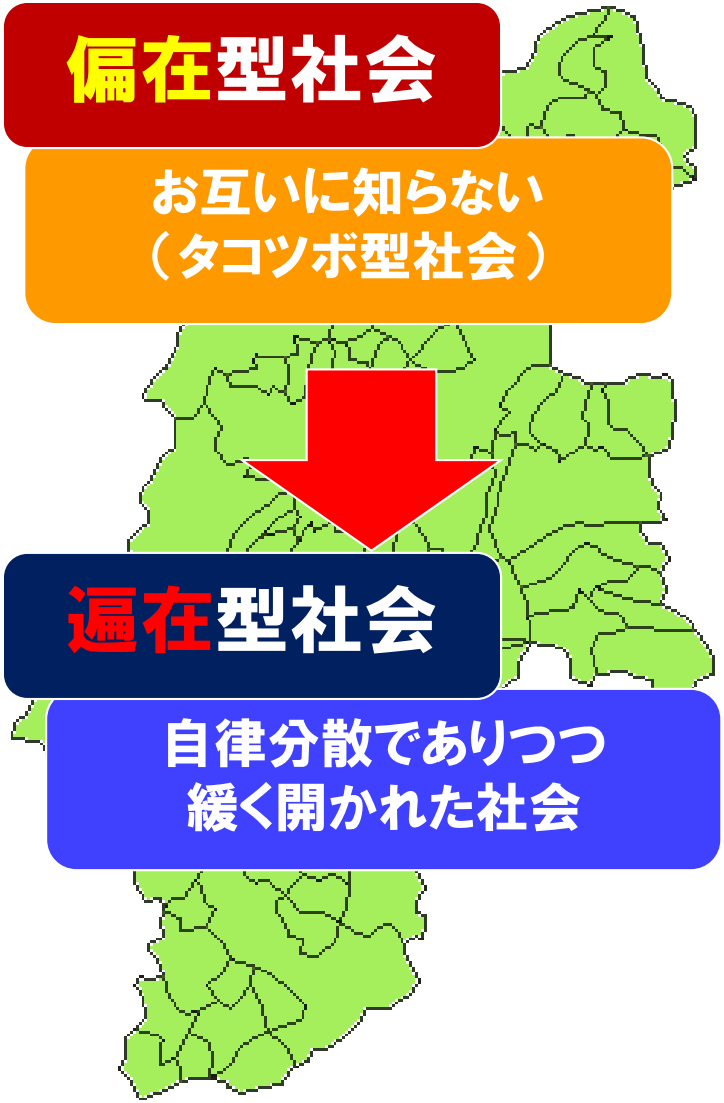
講座開催

サービス提供

地域の
皆様に

一人一人の生きがいづくり
持続できる豊かな地域の創造

地域の知の偏在を遍在に変える



偏在型社会

お互いに知らない
（タコツボ型社会）

遍在型社会

自律分散でありつつ
緩く開かれた社会

「NAGANO」モデルの提唱

山岳に囲まれ隔てられ、
川筋・谷筋ごとに小さな社会が形成
された著しく自律分散的な社会
グローバル化の時代、デジタルに地域をつなぐ
自律分散した小さな社会こそ信州の特性

NA　Narrow　Area
　地域：川筋・谷筋・沢筋
GA　Global Area
　グローバル社会
NO　Networking each One
　「地域」をつなぐ

みんなでつくる地元のアーカイブ
地域の情報を100年後に残す

- 地域の情報をみんなで大切に育てていく
- 図書館の書庫と同じようにデータを残す書庫
- 地域活動・地域学習の支援・保障
  - 顔が見える関係で地域のアーカイブができる
  - 研修会、仲間、身近なところで協働できる
  - データを預けると安全に永続的に保管できる（SNSではできないこと）
  - 地域活動・地域の多様な情報が可視化される
- 地域づくりで共有するメディア環境

地域DCの分散構成

**地域デジタル
コモンズポータル**

自律分散型、包摂性・永続性重視
多様なアーカイブを運営するサービスごとに
サイトを開設し、アーカイブを可視化・共有する

地域・機関・団体などの運営主体の単位で創設する

- **下諏訪地域アーカイブ**
  下諏訪町立図書館
- **蓼科学アーカイブ**
  長野県蓼科高校
- **上田市西部地域マップ**
  上田市西部地域まちづくりの会
- **信州上田学アーカイブ**
  長野大学＋上田市
- **信州上田シルクロードアーカイブ**
  蚕都上田プロジェクト
- ・・・・・

個人・家族・団体などの単位で創設する

- **前川道博アーカイブ**
  前川道博
- **○○○○アーカイブ**
  ○○○○
- ・・・・・

「わたしたちの地域」マップづくり

- マップを地域づくり、地域情報共有に活かす
- モットーは「がんばらない」「楽しむ」
- 「面白がれる」ものや関わり方を発見していこう
- 自分が面白いと思えたらマップの輪を広げよう

信州デジタルコモンズ
上田市西部地域マップ（構築中）

- 西部地域まちづくりの会 自然・生活環境部会の活動（西部地区・塩尻地区の歴史文化スポット）
  - 皆で地域の見聞を広めながら地域の資源を可視化する
  - 誰もが参加できる地域活動に広げていく

地域で住民どうしが情報を共有するには

- 住民がジブンゴトでしたくなる仕掛けを考えよう
- ネット上でのデータ共有が必須
  - 年長者には紙で配布し補完（ネットからプリント）
- 地域を括れる緩く閉じて開いているサービス
- 地区や部会ごとの情報を一元化（重ね合わせ）
  - 住民自治組織ごとの一元化がオススメ
  - 組織横断で一元化ができる仕掛けがよい
- 住民みんなが参加できる手軽さ
  - スマホから簡単にアップロード
  - 年長者には手書き原稿を代理入力すればOK
- いつまでも残り蓄積され続ける

住民自治組織で取り組むとすれば

- **皆が参加して地域のマップづくりで情報共有する**
  - グッドプラクティス「豊野マップ」に学ぶ
  - 「信州デジタルコモンズ」に参加いただけます
  - 住民自治組織単位で利用する形態を推奨
  - 部会などの壁を越え皆で情報を出し合う
  - 作るのが目的ではなく、皆で地域活動を楽しむためのツール
- **迅速で確実な地域密着メディアの提供**
  - グッドプラクティス「武石エリアメール」に学ぶ
  - 「いざ災害」の状況で手元で情報が受け取れる
  - 地元で災害情報を提供する体制
- **住民自治組織の事業として小さく始める**
  - 来年度に向け、組織や部会で小さく始めてみる

グループワーク
今後に向けて
地域の情報共有をどう進めるか

15:30　グループワークと意見交換
16:00　終了